

水稻生育情報（No.2）

令和8年6月10日
県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）

【気象と生育の概況】

本年5月第1半旬から6月第2半旬までの気象は、日平均気温が平年より **0.2℃高く**、日照時間が平年比 **104%で推移しました**。

6月10日現在の水稲定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況は、草丈は**平年並～高く**、茎数は**やや少ない～多く**、葉色は**平年並**の状況です。**一部の圃場では、活着不良で生育に遅れがでています**。

表1. 水稲定点調査（6月10日現在：コシヒカリ）

調査地点	田植日 (月日)	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (葉色板)(SPAD値)	
土浦市	5月5日	60	42.3	527	4.5	39.3
飯田	(5月5日)	60	(35.8)	(394)	(4.8)	(40.2)
石岡市	5月15日	50	34.6	315	4.5	39.9
柿岡	(5月15日)	50	(33.5)	(326)	(5.0)	(39.9)

※（ ）内は平成28年～令和7年の10か年平均値

【今後の栽培管理のポイント】

- ・5月上旬までに植えた水稲は既に中干し時期です。目安：「コシヒカリ」茎数 330 本/㎡
- ・分げつ盛期になると茎数は急激に増えるので、中干しの適期を逃さないように稲をよく観察します（表2参照）。過剰な分げつは無効分げつや倒伏を助長します。
- ・中干しすることで田面を固め、収穫直前まで落水時期を遅らせても機械作業に必要な地耐力が確保できます。また、落水時期を遅らせることで乳白粒の発生抑制や千粒重の増大にもつながります。
- ・中干し期間中は葉色が低下しますが、追肥は控え、穂肥まで待ちます。

表2. 中干しの時期と方法（コシヒカリ）

開始時期	茎数330本/㎡程度となったとき（坪60株・株間18cmで18本/株、坪50株・株間22cmで22本/株）、田植後35日頃が目安
実施期間	葉色が濃い場合は（葉色板で4.5以上）15～20日程度 葉色が薄い場合は（葉色板で4.5以下）10日程度
終了時期	葉色が4.0程度に落ちた時期 幼穂形成期（幼穂長1～2mm、出穂25日前頃）までには終了する
中干し程度	田面に亀裂ができ、軽く足跡がつく程度 水持ちがよい水田では強めに、水はけが良い水田では弱めに行う

【中干し後、出穂前までの水管理について】

- ・中干し後の稲の根は畑作物のように酸素を必要とします。常時湛水で管理していると根腐れを起こす危険が高まるため、根の活力保持のため間断かんがいを行います。
- ・2～3 日湛水し、自然落水後落水状態を 1～2 日程度保つサイクルを繰り返します。落水時には田面が多少乾いても問題ありません。

令和8年の気象の推移

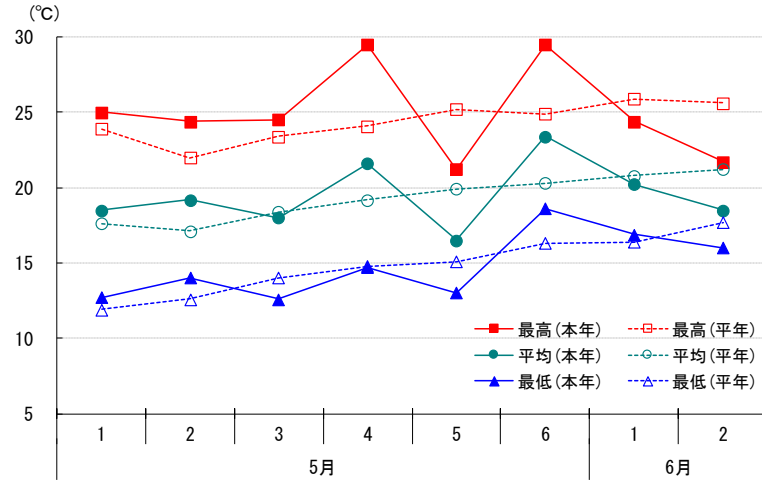


図1 半旬別気温の推移（土浦市）

注）平年値：平成28年～令和7年の10年間の平均値
アメダス土浦観測所データより作成

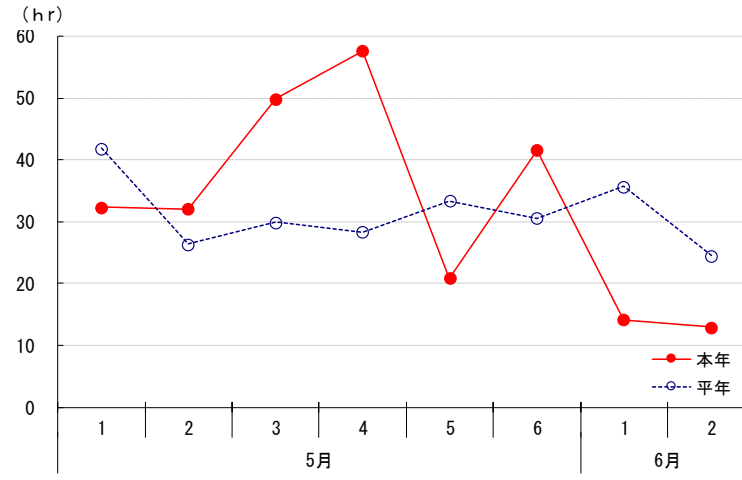


図2 半旬別日照時間の推移（土浦市）

注）平年値：平成2年～令和7年の10年間の平均値
アメダス土浦龍観測所データより作成

令和8年の生育経過グラフ

